

特集 長野県神城断層地震とその後



文殊菩薩像（土倉文珠堂）

鬼無里地区土倉集落にある文珠堂の本尊文殊菩薩。口碑によると木曾義仲の守護仏と伝えられています。知恵を授ける神として信仰され、かつては周辺地域から多くの参詣者を集めました。昨年11月に起きた神城断層地震とその後の豪雪でお堂が損傷したため、鬼無里ふるさと資料館で一時保管し、9月30日まで同館にて公開しています。

神城断層地震の被害と鬼無里地区文化財レスキュー

神城断層地震の被害

2014年11月22日の夜遅くに起きた神城断層地震は、震源地の白馬村や隣接する小谷村はもとより、小川村や長野市にかけても被害を及ぼしました。長野市内では鬼無里地区や中条地区で、土蔵や家屋の壁がはがれ落ちたりひびが入るなどして倒壊の危険があるために、取り壊しを余儀なくされる所が多く見られました。

また、地震は神社仏閣といった地域の文化財にも被害を与えました。鬼無里地区では、本殿が重要文化財となっている白髯神社で社号碑や常夜灯、石垣などが倒壊し、松巖寺では本堂や土蔵のほか、市文化財に指定されている経蔵や観音堂も被害を受けました。表紙にあげた文殊菩薩が祀られている土倉の文珠堂も、震災とその後の豪雪によって屋根の棟が落ちる被害に遭いました。また、同じ境内にあった朝日社は建物が大きく横に変形し、崩壊寸前の状態となりました。(写真1)



写真1 大棟が崩落した文珠堂の屋根



写真2



写真3

書き始めと終わりの小石より嘉永5年に記されたことがわかる

博物館の対応～文化財レスキュー

地震被害を受けた土蔵や家屋では、中に入って整理作業をすること自体危険なため、中に多くの物がある状態で取り壊されることも少なくありません。震災による緊急的な措置のため仕方のないことですが、これまで地域で保存されていた古記録やかつての生活を物語る道具類が失われることは、地域の歴史や文化が消失してしまうことを意味します。

今回、博物館ではこのような事態を少しでも避けるため、取り壊される前の土蔵から、貴重と思われる資料を一時的に預かり、整理する作業を行ってきました。ここではこの作業によって見出した地域の文化財を紹介します。



写真4



写真5
内陣の柱に記された落書きには「當国安曇郡四ヶ城新田宿 慶応三年式十五歳□□延高 寅の八月廿七日より九月三日まで断食筆」とある。四ヶ城はかつての白馬村の名称。堂内にはこのような落書きが多く見られる。



写真6 弘法大師像



写真7 椅子裏墨書銘

松巖寺の土蔵から救出した資料

鬼無里地区町集落にある曹洞宗松巖寺は、地区に伝わる鬼女紅葉の伝説では紅葉の菩提を弔うために創建したとされる寺院です。

松巖寺の土蔵から預かった資料は数多く、資料を運び入れた鬼無里ふるさと資料館で今も整理を続けています。その中には、開基が使用したと伝わる袈裟（写真2）といった、お寺の由緒に係わる貴重な品がありました。また、お寺に奉納された品として、観音経を約130個の小石に記したもの（写真3）や御朱印帳がありました。御朱印帳は巡拝した寺院から参拝した証として出された御朱印を集めたものですが、この御朱印帳は御首題帳と記され、日蓮宗寺院ばかりの御朱印となっています。おそらく日蓮宗徒だった持ち主が巡礼満願の暁にお寺に奉納したものと思われます。曹洞宗寺院の松巖寺が宗派を超えて地域の宗教拠点であったことを示している資料といえるでしょう。（写真4）

土倉文殊堂から救出した資料

鬼無里奥裾花自然園に近い土倉集落は、深い山あいの地にある静かな集落です。しかし、近世までは千国街道を白馬より分かれ、戸隠、善光寺へ抜ける往還が集落の近くを通っていたた

め、当時は人と物の往来が盛んな地域でした。その高台に建つ文殊堂は知恵の神として有名で、安曇や白馬からも参拝に来る人が多かったと伝えられています。（写真5）

お堂には本尊の文殊菩薩のほか、前立本尊の文殊菩薩像、弘法大師像、薬師如来像が祀られており、さらには周辺地域から奉納された絵馬が掲げられています。これらの文化財には直接の被害はありませんでしたが、お堂の屋根の大棟が落ちてしまったため雨漏りによる汚損が心配されました。そのため鬼無里ふるさと資料館に一時的に移すことになりました。

このうち、弘法大師が座る椅子の裏には製作年と製作者が記されていました。（写真6・7）それによると、この像は善光寺新田町で活動していた善光寺仏師長谷川政七によって文政9年に作られたことがわかります。実は鬼無里や中条、芋井、小田切など西山地域の多くのお堂には同一の製作者と文政9年～11年の製作年が記された弘法大師像が残されています。これは文政10年に西山地域に四国の八十八ヶ所霊場を移した新四国霊場が作られたためです。移し霊場をつくる際に、礼拝の対象となるものを用意しなければならなくなったため、急遽多数の弘法大師像が造られたのでした。文殊堂に残された弘法大師像は、この時期文殊堂も新四国霊場の一つとして巡礼の人たちを迎えていたことを示しています。

おわりに

ここでは市内鬼無里地区の被害状況とレスキューされた資料について紹介しましたが、震災の被害が大きかった白馬村や小谷村でも有志のボランティア、長野被災建物・史料救援ネットによる文化財のレスキュー活動が行われています。これらの活動により消失をまぬがれた古い記録や生活道具も少なくありま

せん。そこで博物館では今回の震災での文化財レスキュー活動の様子と、救出された資料を紹介する展示会を企画しました。今回紹介した資料を含め、白馬村・小谷村での活動や救出された資料も展示する予定です。レスキュー活動や救出された資料からどのようなことがわかるのか、10月24日から始まる展示会をご覧くださいければ幸いです。

(細井雄次郎)

資料紹介 鬼無里町組松本家文書

文書からみえる鬼無里の暮らし

松本家は鬼無里の中心地、松巖寺に隣接したお宅で、この家の元右衛門という人物は、幕末に町組の「組頭」と呼ばれる現在の区長にあたるような役職を務めていました。そのためもあって、江戸時代後期の鬼無里村の生活の様子がうかがえる文書資料が200点弱現存していました。ここでは、その中からいくつかご紹介いたします。

殿様が村にやってくる！

松本家には「御境廻」と呼ばれる、松代藩の藩主による領地境の巡見に関する文書が数点伝来していました。他所に伝来する資料な

どから、これらは文久2年(1862)9代藩主真田幸教による御境廻の際に作成された文書と推定されます。御境廻の行程の中で、藩主や家臣団は鬼無里村で宿をとることが決められました。その際、藩主が泊まる本陣として使われた松巖寺や、家臣団の宿に使われた民家の図面が残されていました(写真1)。

また、御境廻に向けて、これらの建物を修繕しておく必要が出ましたが、鬼無里村の大工だけでは人手が足りなかったようです。近隣の花尾村(現小川村高府)や、伊折村、地京原村(現長野市中条)へ、大工を鬼無里村へ派遣してくれるようお願いしたことが、伝来した文書からわかりました。伊折村からの返事が残されていますが、

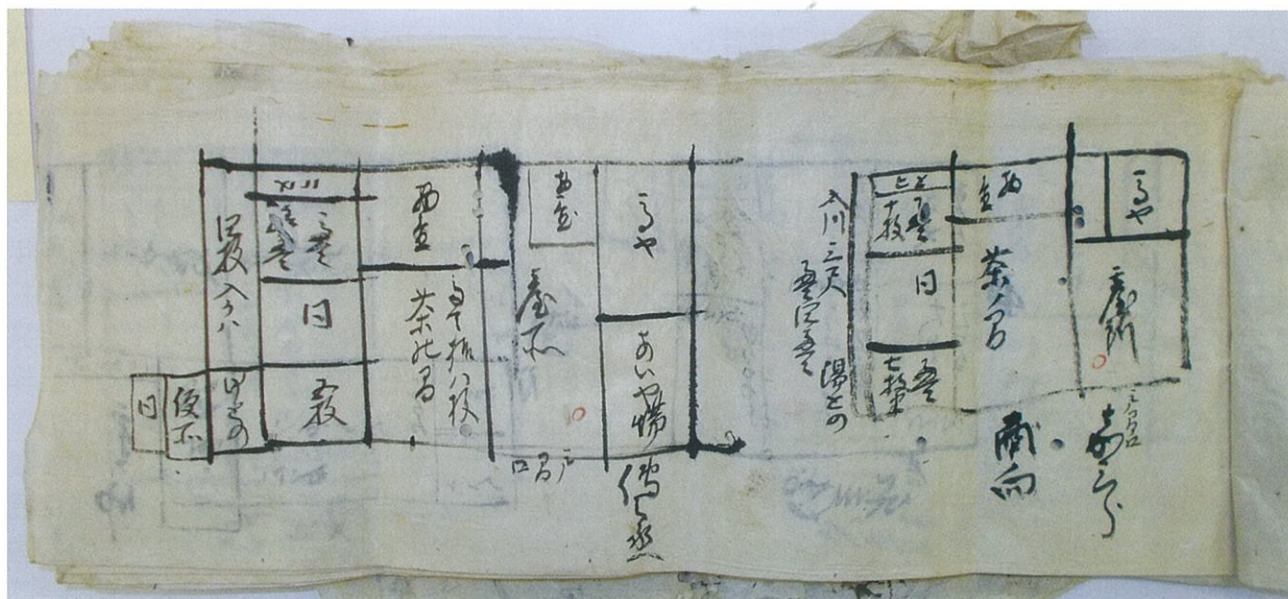


写真1 藩士の宿舎に使われた家の図面

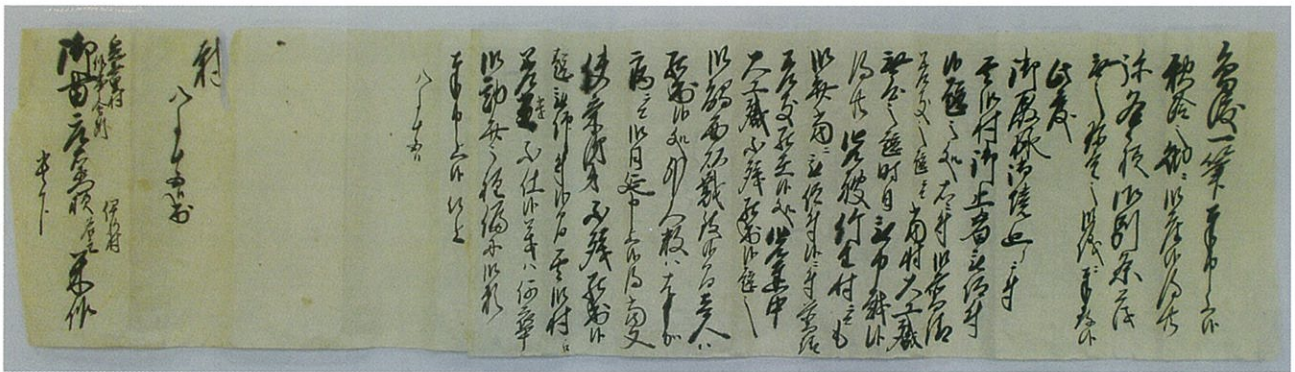


写真2 普請のための大工の融通を断られる

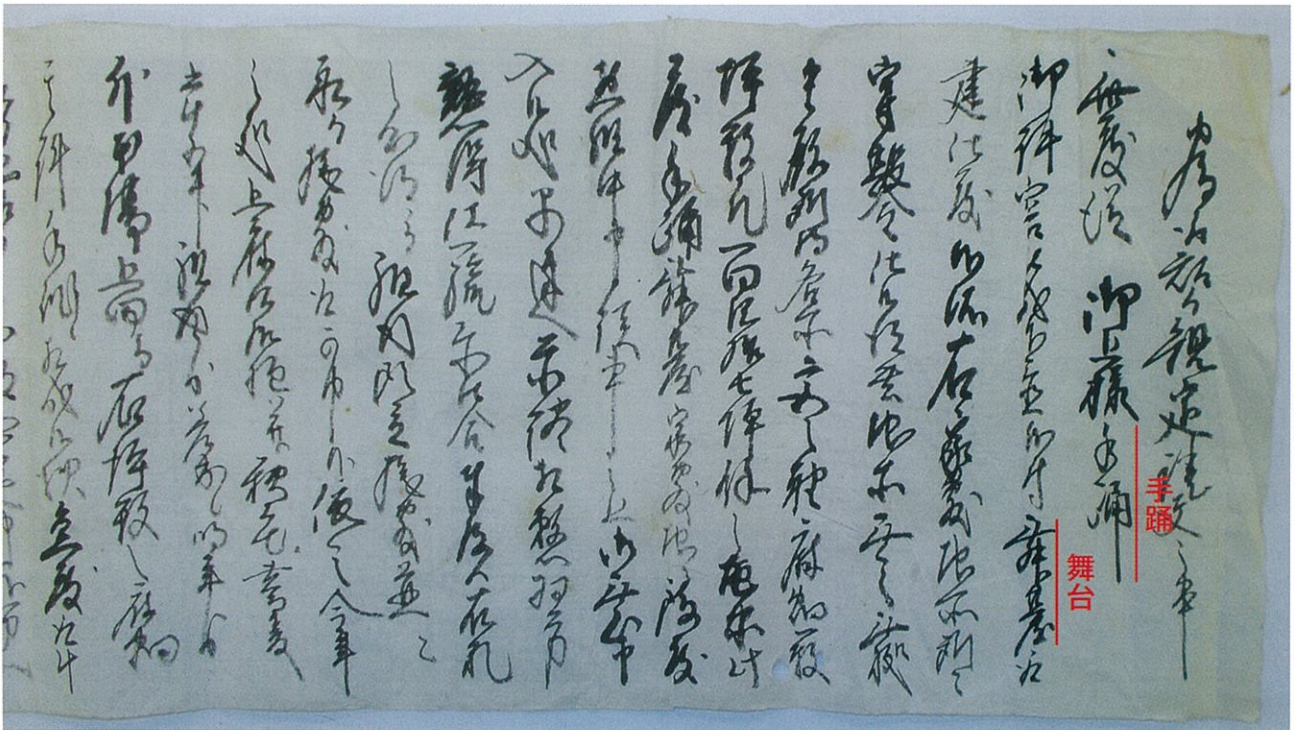


写真3 手踊の舞台のための土地をゆずってくれるようお願いする文書

そこでは、同じく御境廻に際して竹生村（現小川村高府）での建物普請に村中の大工が借り出されてしまったため、鬼無里村へは派遣できないと、断られてしまったことがわかります（写真2）。藩主を迎えるにあたって、準備に大忙しだった西山の人々の様子がうかがえます。

お祭りやりたい！

他には、村の祭りにかける鬼無里の人々の情熱が伝わる文書が残されていました。文久2年（1862）、藩から祭りで手踊りをすることを許された町組の人々は、手踊りのための舞台を設ける場所を探しました。ところが、適当な場所が見つかりません。そこで、吉郎治が持っていたおよそ140坪の麻畑を譲っ

てくれるようお願いした文書が写真3です。といっても、タダで譲ってくれとお願いした訳ではなく、同等の土地と交換すること、今年に関しては麻40抱と秋毛の蕎麦6斗5升を差し出すことが提案されています。ここから、町組周辺の畑では、夏に麻を収穫した後、秋に蕎麦を栽培していたことがうかがえます。また同時に、何としても手踊りをしたいという人々の熱意が伝わってくるように思われます。

今回ご紹介した文書は、昨年11月の地震被害から救出された資料の一部です。今後も訪れるであろう幾多の苦難を乗り越え、未永く地域の歴史を伝え続けて欲しいと思います。

（宮澤 崇士）

2014年11月 長野県北西部地震(神城断層地震)に学ぶ

1 震度 6 弱

昨年 11 月 22 日午後 10 時すぎ、突然の突き上げるような強い揺れ！長く揺れ続けた東日本大震災とは違い、震源が近いと直感しました。「ひょっとすると善光寺地震と同じ長野盆地西縁断層の活動か？」と感じ、ニュースを見ると、地震の規模は M6.7、震源は白馬村・戸隠・鬼無里で震度 6 弱との速報。「なんで？」と感じながらも、被災状況のチェックのため博物館へ向かいました。白馬村や善光寺周辺の被害が大きく報道される中、戸隠では被害が少なかったのに比べ、鬼無里ふるさと資料館が大変な被害となっていました。2 階の格子天井がガラスケースや地形模型の上に落下し、損傷。また、美術品の転倒・破損、鉄製扉の鍵やガラスの破損、タイルの剥落や亀裂などが生じていました。鬼無里中学校でも校庭に亀裂が生じ、松巖寺でも石造物の転倒等が多く、かなり大きく揺れた可能性があります。今回の地震は揺れに地域差があり、それが被害差につながったと思われるため、災害記録からその原因を探る手がかりを得たいと思います。

2 調査の開始

こうした災害発生時、信州大学を中心にその周囲に住む地質を専門にする高校や大学の教員・地質コンサルタント・博物館学芸員などが連携して、自分たちのすむ場所で何が起こったのかを調査するネットワークができています。中越地震（2004）、中越沖地震（2007）、東日本大震災・長野県北部地震・長野県中部地震（2011）の経験を生かしての活動です。

その中で、11 月 24 日に現地を見る機会に恵まれました。水田や道路で段差が生じ、最大変位 1 m の地震断層が約 2 km にわたって確認されました。その後もみんなで手分けして市内周辺の被災地を回り、石造物の倒壊や構造物の被害を記録にまとめています。また、各地の町村役場や住民自治協議会にもお願いし、地震動のアンケート調査に取り組んでいます。

3 今後に向けて

調査で確認した家屋や構造物に生じた地震被害を A：家屋全壊、B：家屋半壊、C：家屋の一部損壊、D：屋根の被害、E：塀や石垣の倒壊、F：配管被害、G：土蔵の被害に区分し、その位置を地形図に落としてまとめてみました。

白馬村で発生した今回の地震は、白馬・小谷地域だけでなく震源地の東側、長野市から小川村にかけての広い範囲で多くの被害を与えました。今回と同規模（M6.7）の 2011 年長野県北部地震では、栄村を中心とした地域に被害が限定されたのに比べて、この点が大きな特徴となっています。

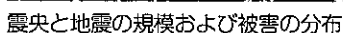
この被害分布図からは、災害に偏りが確認され、鬼無里・戸隠など裾花川流域、小川村・中条・七二会など土尻川流域、そして善光寺周辺から若槻にかけての地域で被害が集中しているのがうかがえます。

被害内容も地域ごとに違いが見られました。鬼無里・戸隠・中条では住居の壁や土蔵の被害が多く、屋根の被害は少ないようです。一方、七二会や信州新町では住居の壁や土蔵の被害とともに屋根の被害が目立ちます。若槻では屋根の被害が集中し、上松や箱清水、善光寺周辺では屋根の被害に加え壁の被害も目立ちます。住宅の構造や建築年数などの違いはあると思いますが、これらは地震の揺れの違いを表しているものと考えられます。

また、同じ震度 6 弱と観測された鬼無里と戸隠では大きな被害差がありました。鬼無里では世帯数 708 戸のうち、住宅被害は全壊 1・半壊 11 を含め 225 戸で発生（被災率 31.8%）したのに対し、戸隠では世帯数 1,567 戸のうち一部損壊 25 戸（被災率 1.6%）です。このような差が生じた理由には、震源からの距離が違うために地震の揺れに差があったこと、鬼無里の多くの集落が地すべり地に位置するのに対し、戸隠の多くの集落が飯縄火山がつくった山麓上に位置することなどが挙げられ、地質的・地盤的な違いが地震動に反映したものと思います。長野市街地でも善光寺から浅川にかけての地域に被害が集中したのは、その地下に善光寺地震を引

地質学的にみれば、今回の地震は糸魚川ー静岡構造線と長野盆地西縁断層に挟まれた、鬼無里・戸隠・茅井など“西川”と呼ばれる大地（地

(用刃智降)



- ・長野市および小川村から提供を受けた被害資料を元に独自に被害を区分、集計した。
- ・家屋は住家、非住家（店舗、物置、ビル）を一括し、構造・材質の詳細は不明。
- ・1軒で複数の被害がある場合、被害件数はそれぞれの被害内容に加えた。
- ・「赤紙」および「危険」判定は、それぞれ全壊および半壊に加えた。
- ・小川村の「Ｃ：一部破損」には、「Ｄ：屋根（瓦・ぐし）の被害」を含む可能性がある。

震源分布は気象庁の震源リスト (http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/daily_map/index.html) に基づき作成。

竹下ほか (2015) 信州大学緊急調査報告書 (信州大学山岳科学研究所) より引用

この度の地震は、一般的には「神域断層地震」とされていることから特集ではその名称を使用しましたが、本論では地質学的見地から「2014年11月長野県北西部地震」としました。

被害の様子



白馬村で生じた地震断層を北側からみる



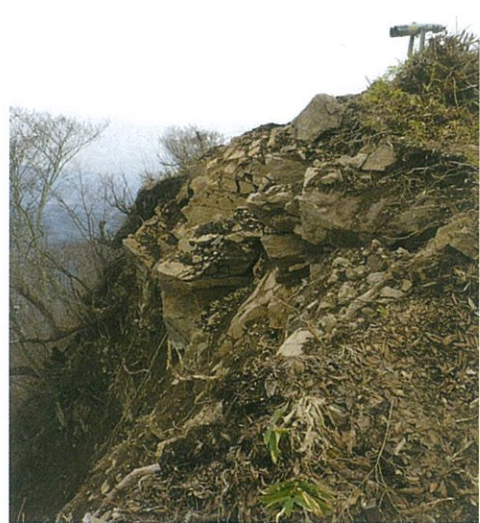
盛り土の部分では石造物被害が目立つ（戸隠豊岡）



白馬村で現れた地震断層（落差約1m）



農道の坂に生じた亀裂。断層崖だということが判明



虫倉山の山頂も崩壊（中条）



地震で発生した地滑り（戸隠豊岡）

博物館だより 第95号

発行日2015年9月30日

長野市立博物館

〒381-2212 長野市小島田町1414

TEL:026(284)9011

<http://www.city.nagano.nagano.jp/museum>

戸隠地質化石博物館

〒381-4104 長野市戸隠栃原3400

TEL:026(252)2228

鬼無里ふるさと資料館

〒381-4301 長野市鬼無里1659

TEL:026(256)3270

信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館

〒381-2404 長野市信州新町上条88-3

TEL:026(262)3500

ミュゼ蔵

〒381-2405 長野市信州新町37-1

TEL:026(262)2500